

景況調査

報告書 NO. 57

平成24年 10月～12月 実績
平成25年 1月～3月 見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

平成24年度第3四半期(H24. 10～12月)景況調査

1. 調査時点 平成24年12月5日～20日

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内
 (2) 対象(回答)企業 120[113企業、7団体＝三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	47 (3)	13 (2)	15 (1)	24	13 (1)	8	120 (7)

※ ()は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前年同期比で△33.3、前期実績(7～9月・△32.0)と比較すると1.3ポイントの下降、悪化の傾向が見られ、前期比については△25.8、前期実績(7～9月・△29.4)と比較すると3.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**売上DI値**については、前期比で0.8、前期実績(7～9月・△21.8)と比較すると22.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**については前期比で△15.9、前期実績(7～9月・△32.8)と比較すると16.9ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(H25.1～3月)見通し**については△29.2、今期の実績(全業種(当期実績)前期比 △25.8)と比較すると3.4ポイントの下降であった。

「**製造業**」のうち**食料品**は、年末の需要期にあり前期比では好転も、原材料コストの負担感に加えて、海外生産シフトを懸念。織物は、需要期にショートした分が早めに動き出している。漁網・ロープは、復興需要による特需は徐々に正常化し、稼働率の低下が始まる。漁網は魚価安・不漁で厳しい。土木・建築・スポーツ等は堅調。鉄工のうち、工作機械関係は現状ではまだ残業があるが、ここに来て減少傾向。自動車部品関連は、国内販売不振で減少傾向。当面は良いが先行き不透明。メーカーの海外シフトによる国内受注競争激化を懸念。化学・プラスチックのうち、化学は円安で収益が改善。プラスチックは売上は確保も収益が圧迫して前年並み。

「**建設業**」は、少しずつ動きが出始めるも全般的には低調である。

「**卸売業**」のうち、繊維卸は、<産業資材関連>当初の秋冬商品は残暑で当初鈍かったが、冷え込んだ後は小ロット短納期でタイトな状況<寝装関連> 昨年に比べ気温が下がり、布団・毛布を中心に動きあり。<インテリア関連> 秋冬のシーズンに入ったが、出荷・受注量ともに計画を下回った。<衣料関連> 秋冬物は低価格帯中心で高価格帯の商品はさほど動かず、春夏に向け新素材関係で動きあり。

「**小売業**」は、年末商戦も消費低迷の影響は否めず売上の減少が見られた。また、天候が良い影響で、農産物は市場販売価格の低下が見られた。**飲食**は、忘・新年会は小グループ化が進むも、例年並みか若干の増加傾向。

「**サービス業**」のうち**旅館関係**は、全体的に厳しい状況だが、宿泊者数は前年並み。忘年会は、トヨタグループの景気状況に左右され厳しいが前年並みを確保。旅行の小グループ化により間際予約が増し先が読めない。

「**運輸通信業**」**貨物輸送**は、輸送量全体は大きな変化なく対前年微増に留まる。輸出は円高・欧州債務危機に伴う中国景気減速で、前年同期比で微減。輸入はエネルギー需要を中心に横バイ。**バス業界関係** 秋～年末のシーズンだが、天災等の影響があった対前年比は上回るも、前々期比では特に収益面で厳しかった。また12月は衆議院議員選挙による出控えもあり、対前年比を割り込んだ。

設備投資状況は、32事業所(44件)で設備投資が実施され、生産設備他に投資された。来期は24事業所(35件)が設備投資を計画している。

経営上の問題点では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、原材料(燃料)高、合理化の不足が項目別で上位を占めていた。

当地区において 全国的に景気回復の動きが鈍化するなか、全業種売上DI(前期比)がプラスに転じるのは平成19年第3四半期以来だが、多分に時期的要因も含み、総合判断は水面下に留まる厳しい状況である。新政権の経済対策に期待を寄せると共に、当所としてもアクションプラン推進等により、中小企業相談所はじめ経営支援体制を一層強化し、経済振興を図る所存である。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

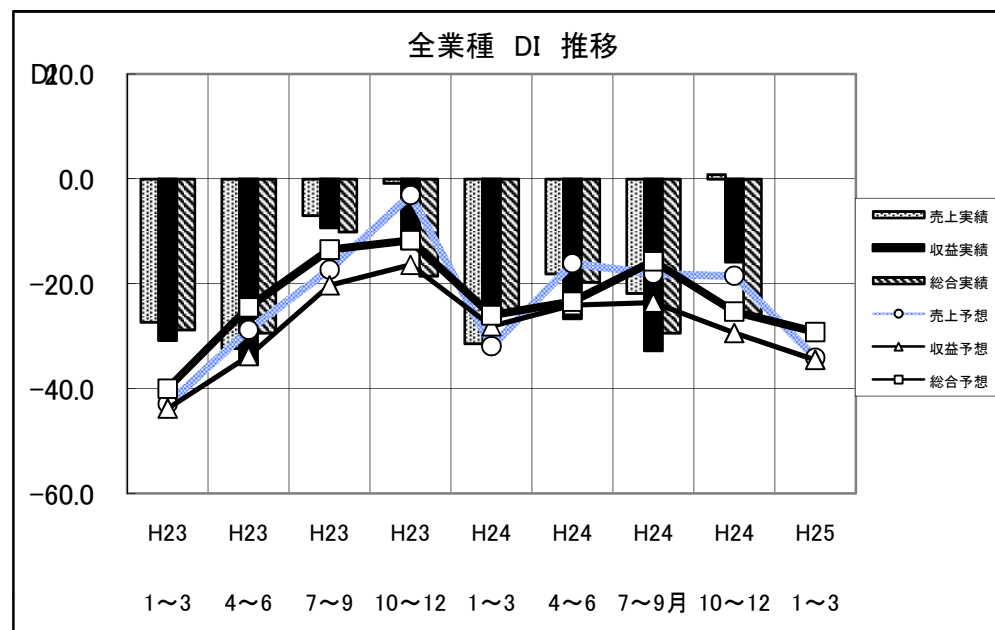
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	-31.6	0.8	-34.1	H23. 10～12月実績	-14.1	-0.8	-23.7	-13.4	-14.8	-18.5	-26.0
②製品・商品在庫	-13.4	-10.9	-14.1	H24. 1～3月実績	-7.3	-31.4	-21.9	-27.7	-19.0	-25.6	-23.4
③資金繰り	-17.5	-11.6	-17.5	H24. 4～6月実績	-7.9	-18.1	-18.9	-26.7	-12.6	-19.7	-15.7
④採算(収益)	-35.8	-15.9	-34.5	H24. 7～9月実績	-29.4	-21.8	-33.6	-32.8	-32.0	-29.4	-25.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	2.5	0.0	-7.5	H24. 10～12月実績	-31.6	0.8	-35.8	-15.9	-33.3	-25.8	-29.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-25.8	-29.2								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	H23.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月
売上	-27.3	-32.3	-7.0	-0.8	-31.4	-18.1	-21.8	0.8	-34.1
収益	-30.9	-35.4	-9.4	-13.4	-27.7	-26.7	-32.8	-15.9	-34.5
総合	-28.8	-29.4	-10.1	-18.5	-25.6	-19.7	-29.4	-25.8	-29.2

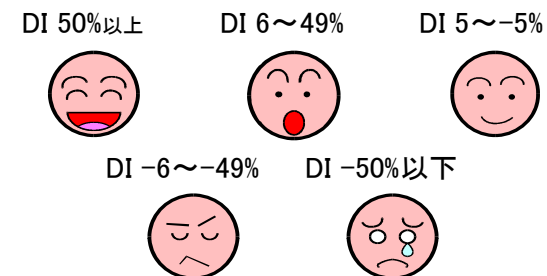
◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について
DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合ー減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)ー(減少) 採算(収益) :DI=(上昇)ー(下降)
製品・商品在庫 :DI=(減少)ー(増加) 従業員数 :DI=(増加)ー(減少)
資金繰り :DI=(好転)ー(悪化) 業況(総合判断) :DI=(好転)ー(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
DIが0 ⇒ 景気横ばい
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)



6. 業種別報告

製造業

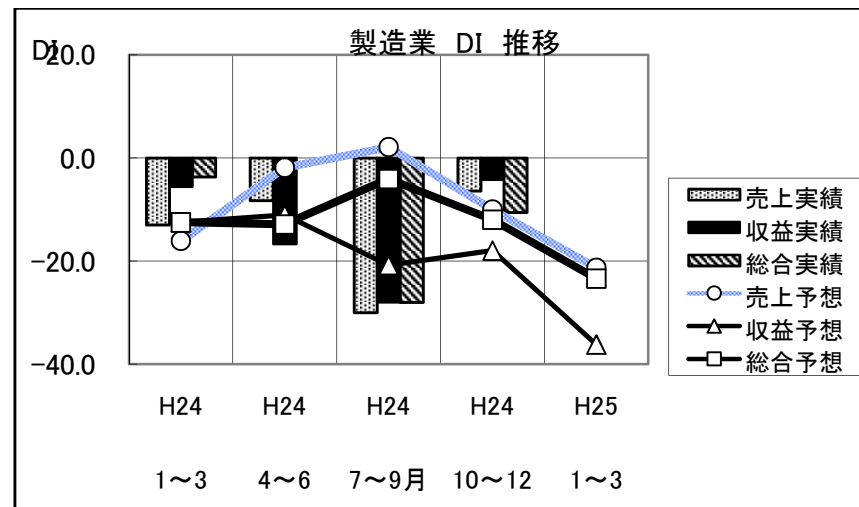
売上DI値は△6.4、前期実績7～9月期(△30.0)に比して23.6ポイントの上昇、収益DI値は△4.2、前期実績7～9月期(△28.0)に比して23.8ポイントの上昇、総合判断DI値は△10.6、前期実績7～9月期(△28.0)に比して17.4ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも改善傾向である。

向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも悪化傾向にあり、大変厳しい状況である。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-8.5	-6.4	-21.3
②製品・商品在庫	-12.7	-12.8	-14.9
③資金繰り	-4.3	0.0	-10.6
④採算(収益)	-17.1	-4.2	-36.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.9	0.0	-4.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-12.7	-10.6	-23.4



<業況判断DIの推移>

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-13.0	-8.3	-30.0	-6.4	-21.3
収益	-5.6	-16.7	-28.0	-4.2	-36.2
総合	-3.7	0.0	-28.0	-10.6	-23.4

[食料品]

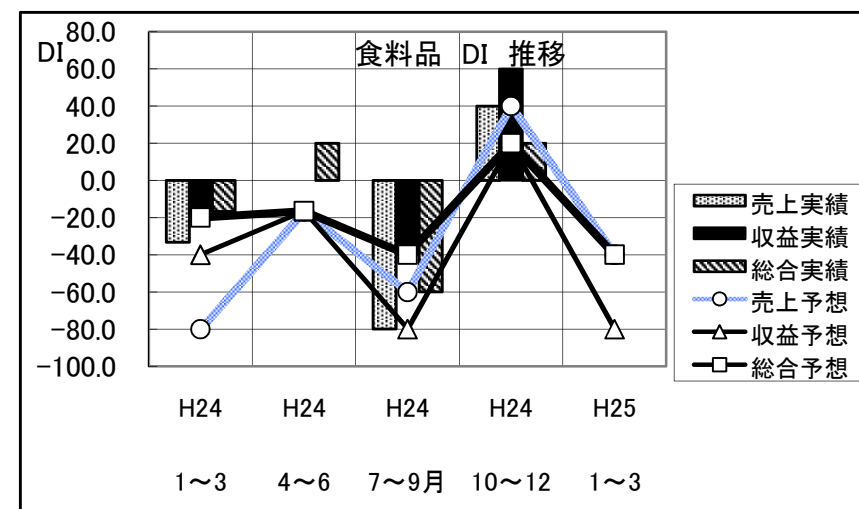
売上は、年末の需要期に入り前期比DI値は40.0%と好転しているが、前年同期比ではDI値△20.0%と引き続き悪化の傾向。一方収益は、前期比DI値では60.0%と好転。前年同期比ではDI値0.0%と横バイ。原材料価格の上昇による影響を懸念する声が多い。総合判断では前期比DI値は20.0%と好転しているが、前年同期比ではDI値△60.0%と悪化の傾向が続いている。

向こう3カ月の見通し 年末の需要期を過ぎて売上はDI値△40.0%と一転して悪化。収益DI値△80.0%、総合判断DI値△40.0%と業況は厳しくなることが予想される。国内の食品業界は、海外製品との価格競争にさらされており、原材料コストの負担感に加えて、今後海外生産への依存が強まることが懸念される。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	40.0	-40.0
②製品・商品在庫	-20.0	-20.0	-20.0
③資金繰り	0.0	20.0	-40.0
④採算(収益)	0.0	60.0	-80.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	40.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-60.0	20.0	-40.0



<業況判断DIの推移>

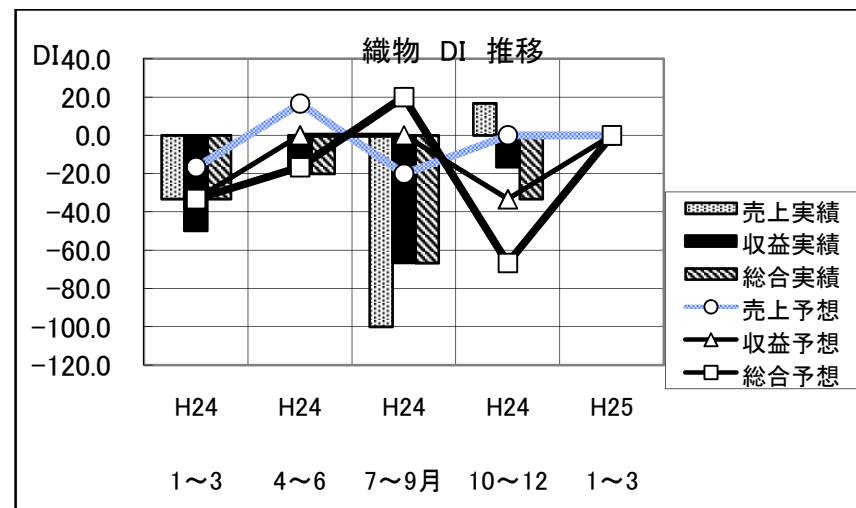
	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-33.3	0.0	-80.0	40.0	-40.0
収益	-16.6	0.0	-40.0	60.0	-80.0
総合	-16.6	20.0	-60.0	20.0	-40.0

[織物]

今年の需要期にショートした分、来季に向けての生産が前倒しで始まり満杯状態である。

向こう3カ月の見通し 一般的な景況感では不安材料ばかりで需要期にどこまで荷動きがつかってくるか慎重な見通しである。1～3月が順調にいけば4～6月の見通しも明るい。

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	16.7	0.0
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-50.0	-16.6	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-16.7	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-33.3	-33.3	0.0



<業況判断DIの推移>

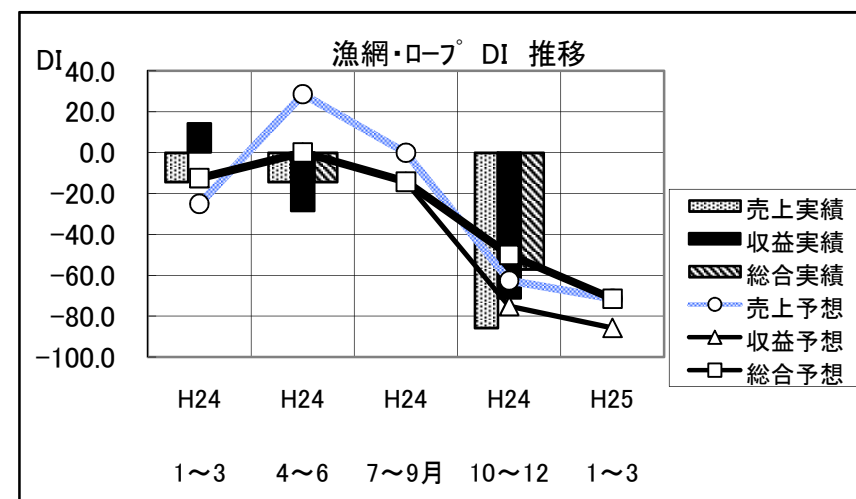
	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-33.3	0.0	-100.0	16.7	0.0
収益	-50.0	-20.0	-66.7	-16.6	0.0
総合	-33.3	-20.0	-66.7	-33.3	0.0

[漁網・ロープ]

復興需要による特需は徐々に正常化し、稼働率の低下が始まっている。漁網は、魚価安・不漁で回収が厳しい。土木・建築・スポーツ等は堅調も、自動車の動きが鈍い。

向こう3カ月の見込み 受注量は停滞傾向にあり、見通しは不透明である。(繊維ロープ部会)

	(DI 単位:%)		
	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-57.1	-85.7	-71.4
②製品・商品在庫	-28.6	-42.9	-57.1
③資金繰り	-28.6	-28.6	-28.6
④採算(収益)	-71.4	-71.4	-85.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-57.1	-71.4



<業況判断DIの推移>

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-14.3	-14.3	0.0	-85.7	-71.4
収益	14.3	-28.6	0.0	-71.4	-85.7
総合	0.0	-14.3	0.0	-57.1	-71.4

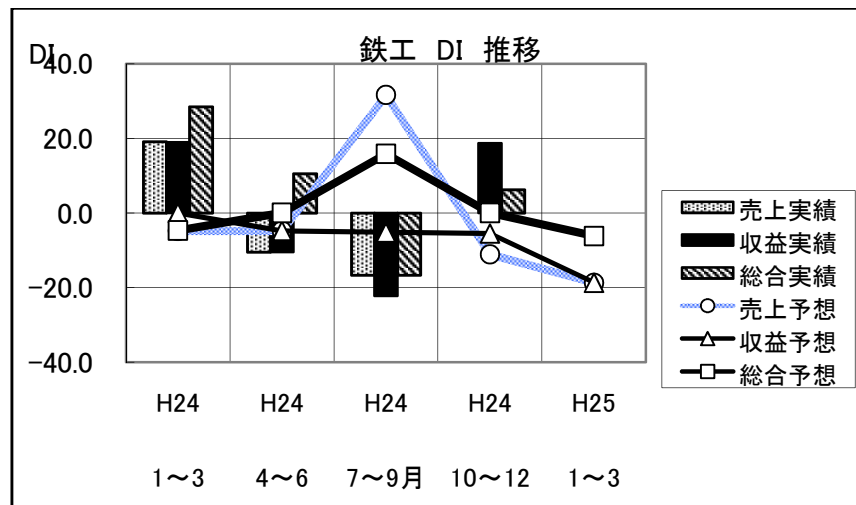
[鉄工]

＜工作機械関係＞ 国内生産は、現状ではまだ残業があるが、ここに来て減少傾向。円高の影響か、全国の機械受注統計では10月以降1,000億円を割り込んだが、全体では健闘した。向こう3カ月の見通し 国内生産は、現状に比べ2割程度減産見込み。受注は統計に表れているように外需が減少。欧州の受注減が大きく、中国の政情不安による受注減少の回復も不透明。3月以降の生産計画を注視。米国景気の回復を期待している。国内の産業界は体力勝負で、次期政権への期待が大。

＜自動車部品関係＞ 生産に関しては、国内販売不振で減少傾向。現状では販売低迷が長引く、国内生産も減少気味。なお、例年のごとく1～3月のトヨタは月2回の土曜出勤があり、生産対応は大変である。基本的に自動車各社は海外生産にカジを大きく切っており、国内生産に増加傾向は期待できない。向こう3カ月の見通し 生産に関しては、1～3月は別として生産計画は減産傾向が明確に。今回の中国減産体制が何時反転するのか。円高による自動車各社は増産・新機種の新産計画は、ほとんど海外に移行。新政権への期待は大きい。（金属鉄工部会）

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	-18.7
②製品・商品在庫	-6.3	-6.3	-6.3
③資金繰り	6.2	6.3	-12.5
④採算(収益)	0.0	18.7	-18.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	12.5	6.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	6.3	6.2	-6.2



＜業況判断DIの推移＞

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	19.1	-10.5	-16.7	0.0	-18.7
収益	19.0	-10.5	-22.2	18.7	-18.7
総合	28.5	10.5	-16.7	6.2	-6.2

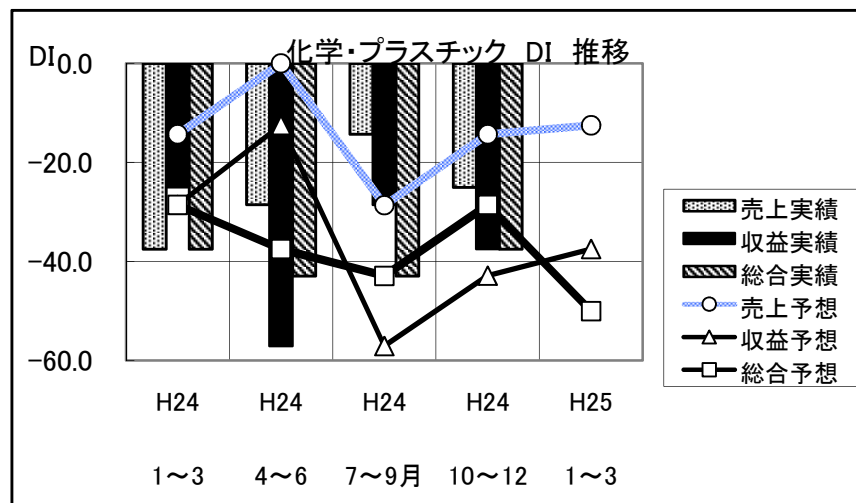
[化学・プラスチック]

＜化学工業＞ 円安傾向で収益は改善傾向にある。向こう3カ月の見通し 円安傾向が続く事を期待している。

＜プラスチック＞ 前年同期・前期と比べて生産額・売上額が増加した時期であったが、利幅の縮小によって総合的な業況は前年同期・前期とあまり変化がなかった。原材料高が利幅縮小の一因となっている。向こう3カ月の見通し 生産額・売上額は今期と同程度見込んでいるが、円安によりさらなる原料単価の値上がりが予想され、利益が悪化する見通しである。（化学部会）

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-12.5	-25.0	-12.5
②製品・商品在庫	-25.0	-12.5	-12.5
③資金繰り	-37.5	-25.0	-12.5
④採算(収益)	0.0	-37.5	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	25.0	-25.0	-25.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-25.0	-37.5	-50.0



＜業況判断DIの推移＞

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-37.5	-28.5	-14.3	-25.0	-12.5
収益	-25.0	-57.1	-28.6	-37.5	-37.5
総合	-37.5	-42.9	-42.9	-37.5	-50.0

建設業

売上DI値は△15.4、前期実績7～9月期(△15.4)に比して横バイ、収益DI値は△30.8、前期実績7～9月期(△46.1)に比して15.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△38.4、前期実績7～9月期(△38.5)に比して0.1ポイントの上昇。売上・総合は横バイ、収益は改善傾向も、依然として全て水面下の厳しい状況が続く。公共工事・民間工事とも動きは低調で、厳しい状況である。
向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも悪化傾向で厳しい見通し。(建設部会)

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-38.4	-15.4	-38.4
②製品・商品在庫	-7.7	-7.7	-7.7
③資金繰り	-7.7	-7.7	-15.4
④採算(収益)	-38.4	-30.8	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-7.7	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-38.4	-38.4	-38.5

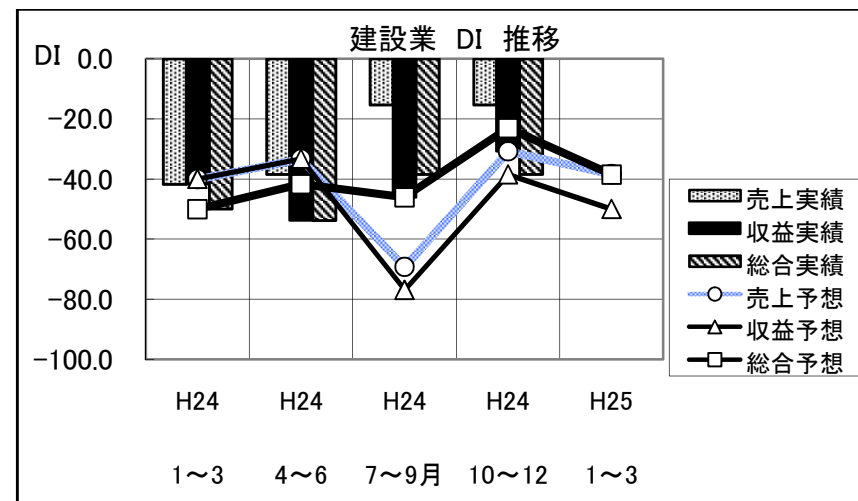
卸売業

売上DI値は26.6、前期実績7～9月期(△11.8)に比して38.4ポイントの上昇。収益DI値は△13.4、前期実績7～9月期(△29.4)に比して16.0ポイントの上昇、総合判断DI値は△20.0、前期実績7～9月期(△23.5)に比して3.5ポイントの上昇と、売上・収益・総合共に改善傾向であった。
向こう3カ月の見通し 売上・収益・総合とも悪化傾向にあり、厳しい状況。

卸売業

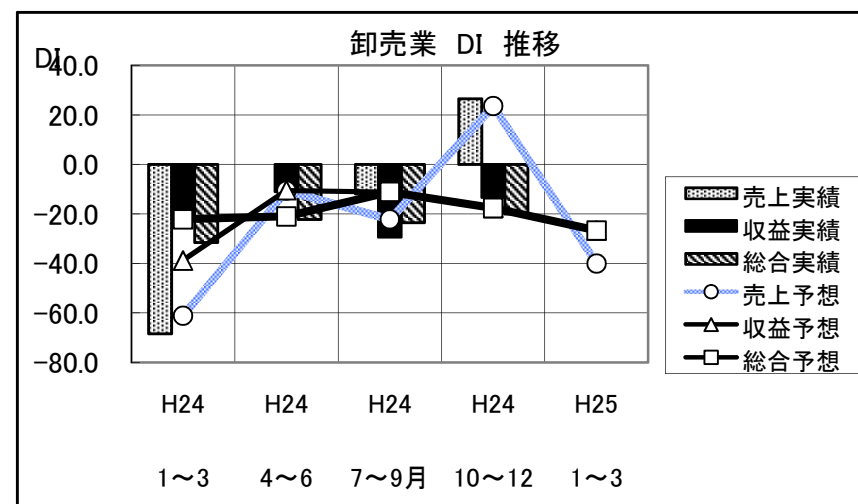
(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-20.0	26.6	-40.0
②製品・商品在庫	-26.6	-20.0	-33.3
③資金繰り	-13.3	-20.0	-20.0
④採算(収益)	-20.0	-13.4	-26.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	6.6	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-20.0	-20.0	-26.7



<業況判断DIの推移>

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-41.7	-38.4	-15.4	-15.4	-38.4
収益	-41.7	-53.8	-46.1	-30.8	-50.0
総合	-50.0	-53.8	-38.5	-38.4	-38.5



<業況判断DIの推移>

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-68.4	0.0	-11.8	26.6	-40.0
収益	-21.1	-11.1	-29.4	-13.4	-26.7
総合	-31.5	-22.2	-23.5	-20.0	-26.7

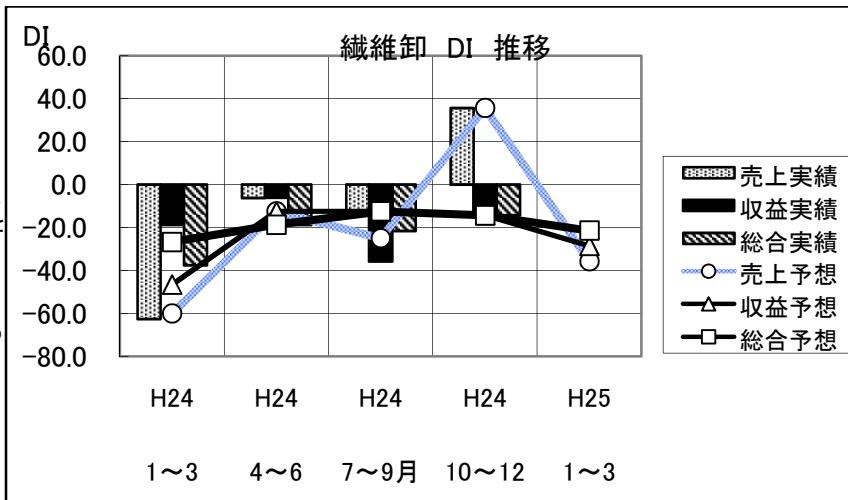
〔繊維卸〕

<産業資材関連> 秋冬商品は残暑の影響で動き悪く生産も抑制される。11月後半から冷え込み、毛布関係は小ロット短納期のタイトな状況も、在庫薄のため全体量が低調。春夏物の仕込みも、今夏の節電対策の在庫が過剰気味で、次期の生産にも影響。向こう3カ月の見通し 消費に対する不透明感が強く、小ロットや別注対応が増加。タイムリーな供給がカギになる。<寝装関連> 昨年に比べ気温が下がり、布団・毛布を中心に動きがあり、各社売上ベースで昨年対比アップ。ただし、コタツは生活習慣の変化で年々販売量は減少。12月も冷え込みが続けば冬物の消化は順調。向こう3カ月の見通し 例年1~2月は各社在庫処分が中心。春夏物が店頭に並ぶのは2月後半からだ、ピークは例年5月連休明けから。1~3月は前年並みの見込み。<インテリア関連> 秋冬のシーズンに入ったが、出荷・受注量ともに計画を下回った。向こう3カ月の見通し 春先の移動・就進学に向けてシーズンインとなる。受注量・出荷量ともに期待している。<衣料関連> 春夏物のデリバリーでは綿複合素材、製品染用のPT素材が好調。東京展示会への出品素材の引合いも多い。婦人向けでは秋冬物の出荷がピーク。安価な価格帯の製品が中心で、ジャケット・コート等の高品質な製品は伸びずリスクが大きい。向こう3カ月の見通し 2月までは例年を上回る勢いがあり、差別化できている商品は堅調な見込み。婦人服向けでは、春夏物の仮需になるが、先物契約少なく軽衣料・ホームウェア中心の売れ筋在庫をいかに持つかで優劣がでる見込みも、ハイリス্ক・ローリターンの様相。(繊維部会)

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月~12月 に比べて	前期比 平成24年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	35.7	-35.7
②製品・商品在庫	-28.6	-21.5	-35.7
③資金繰り	-7.2	-14.3	-21.4
④採算(収益)	-21.4	-14.3	-28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	7.2	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-14.3	-14.3	-21.4



<業況判断DIの推移>

	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月
売上	-62.5	-6.2	-14.3	35.7	-35.7
収益	-18.8	-6.2	-35.8	-14.3	-28.6
総合	-37.5	-18.8	-21.5	-14.3	-21.4

小売業

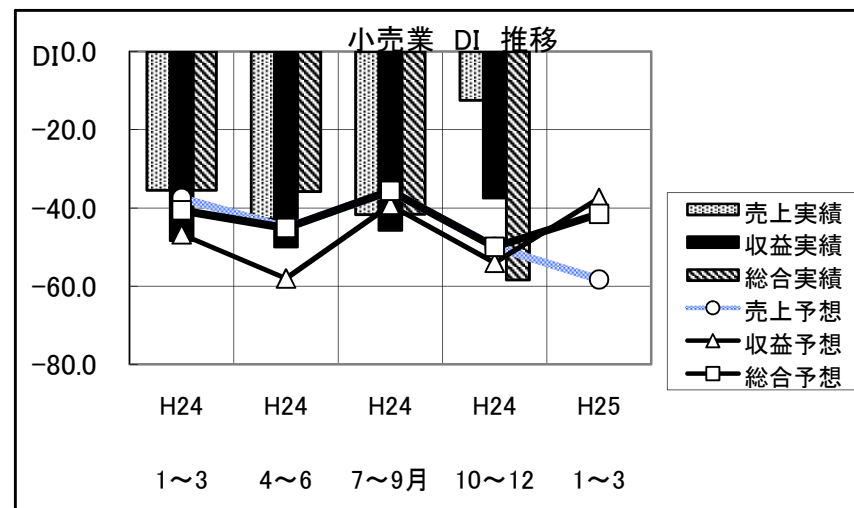
売上DI値は△12.5、前期実績7~9月期(△41.7)に比して29.2ポイントの上昇。収益DI値は△37.5、前期実績7~9月期(△45.8)に比して8.3ポイントの上昇、総合判断DI値は△58.4、前期実績7~9月期(△41.6)に比して16.8ポイントの下降と、水面下ではあるものの売上・収益は改善、総合は悪化傾向が見られた。向こう3カ月の見通し 売上は悪化、収益は横バイ、総合判断は改善傾向にあるが全て水面下の厳しい見通し。

年末商戦も消費低迷の影響は否めず売上の減少が見られた。また、天候が良い影響で、農産物は市場販売価格の低下が見られた。向こう3カ月の見通し 例年1~3月期は消費が控えられるため売上が伸びない時期に入る。(商業部会)

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月~12月 に比べて	前期比 平成24年7月~9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月~3月 の見通し
①生産額・売上額	-79.1	-12.5	-58.3
②製品・商品在庫	-25.0	-16.6	-20.8
③資金繰り	-50.0	-29.2	-37.5
④採算(収益)	-70.8	-37.5	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	-12.5	-20.8
⑥貴社の業況(総合判断)	-75.0	-58.4	-41.6



<業況判断DIの推移>

	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月
売上	-35.5	-42.9	-41.7	-12.5	-58.3
収益	-48.4	-50.0	-45.8	-37.5	-37.5
総合	-35.5	-35.8	-41.6	-58.4	-41.6

【飲食】

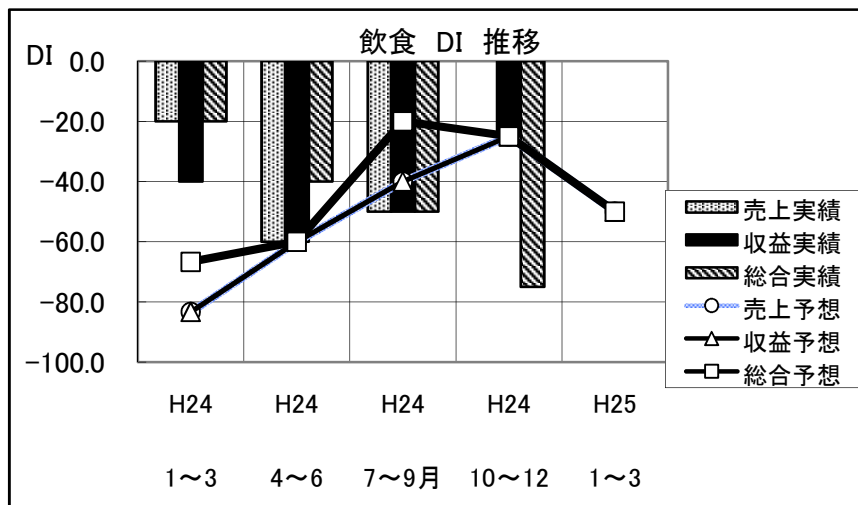
忘年会や新年会の予約状況は、景気が悪いといっても節目の行事であり、小グループ化や部署単位などでは行われるため、例年並か若干の増加傾向となっている。オンパクについても、直接プログラム提供をするは難しくても、PRを通じた協力を行った。

向こう3カ月の見通し 歓送迎会の予約は、まだまだ先の話だが、忘・新年会同様に節目の行事であり、前年並か若干の増加を期待している。また、B-1グルメの影響か、グルメスタンプラリーが開催されているが、蒲郡の飲食店も「メヒカリ」をメインとした料理等で参加しているが、「いなり寿司」や「カレーうどん」のようなメイン料理でなく一品料理なので提供方法に工夫が必要。これらの取組で極端に客数が増加するとは思わないが、蒲郡の知名度が上がり徐々にファンが増加してくれば、市内の飲食店にも良い影響がでると思っている。(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

(飲食)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-75.0	0.0	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-75.0	-50.0	-50.0
④採算(収益)	-100.0	-25.0	-50.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-75.0	-75.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月
売上	-20.0	-60.0	-50.0	0.0	-50.0
収益	-40.0	-60.0	-50.0	-25.0	-50.0
総合	-20.0	-40.0	-50.0	-75.0	-50.0

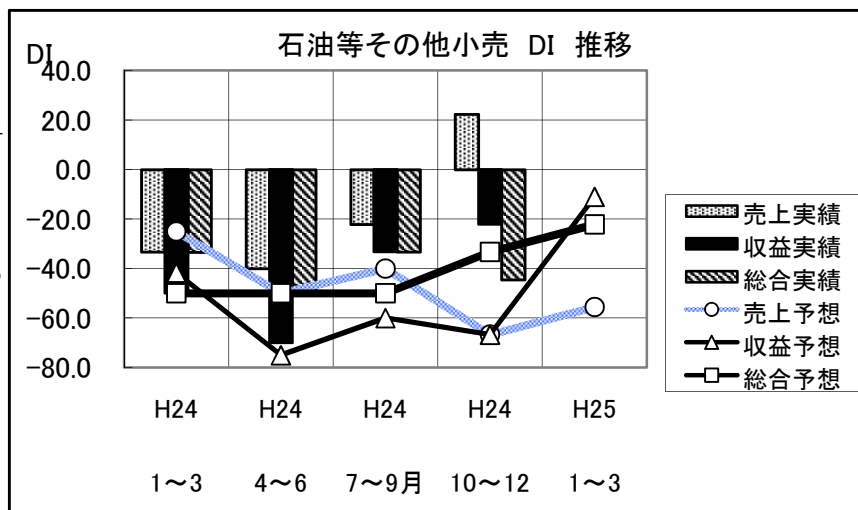
【石油等その他小売】

価格動向で見ると、WTI先物取引は、10月中旬以降80ドル台が続く。年明け以降の米国「財政の崖」への懸念や、熾り続けるギリシャ・スペイン等の欧州債務問題への懸念で価格が上下した。また、アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は、概ね107~109ドル間で推移した。向こう3カ月の見通し 価格の見通し原油価格は緩やかな上昇基調を辿る見込み。2013年の世界景気の回復ペースは緩やかなものにとどまると見込まれるが、欧州債務問題に加えて、米国の財政問題や中国の景気減速に対する懸念が高まっている。当面、世界景気先行不安は払拭されず、原油価格の上値を抑制するだろう。他方、OPECの生産量は小幅減少しているものの、生産目標の日量3,000万バレルを依然上回る。足元の世界の原油需要は弱く供給不足感はないが、イラン・イスラエル等の中東諸国を巡る地政学リスクによる供給懸念が根強く、原油価格の押し上げ要因になる見込み。2013年末にかけて原油価格は四半期平均で96ドルと緩やかな上昇基調を辿るとみられる。また、昨今の原油市場では、米国のシェールオイル生産拡大やイラクの生産回復といった供給力拡大の動きがあり、将来的に米国とイラクはサウジアラビアに匹敵する産油国となり、世界の原油需給構造が大きく変化する可能性がある。(エネルギー部会)

(石油等その他小売)

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-77.8	22.3	-55.6
②製品・商品在庫	-33.3	-11.1	-22.2
③資金繰り	-44.4	-22.2	-33.3
④採算(収益)	-55.6	-22.2	-11.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	-22.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-77.8	-44.5	-22.2



<業況判断DIの推移>

	H24.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H25.1~3月
売上	-33.3	-40.0	-22.2	22.3	-55.6
収益	-50.0	-70.0	-33.3	-22.2	-11.1
総合	-33.3	-50.0	-33.3	-44.5	-22.2

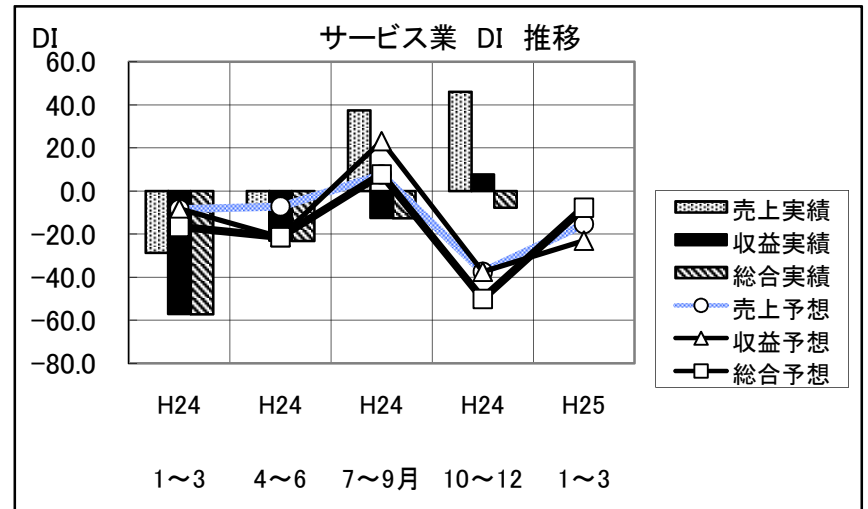
サービス業

売上DI値は46.1、前期実績7～9月期(37.5)に比して8.6ポイントの上昇、収益DI値は7.7、前期実績7～9月期(△12.5)に比して20.2ポイントの上昇、総合判断DI値は△7.7、前期実績7～9月期(△12.5)に比して4.8ポイントの上昇と、売上・収益・総合とも改善傾向であった。
向こう3カ月の見通し 年末年始を過ぎて、売上・収益は悪化、総合判断も横バイの状況。

サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-38.4	46.1	-15.4
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-30.8	-15.4	-7.7
④採算(収益)	-46.1	7.7	-23.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	15.4	15.4	-7.7
⑥貴社の業況(総合判断)	-38.5	-7.7	-7.7



<業況判断DIの推移>

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-28.6	-7.7	37.5	46.1	-15.4
収益	-57.1	-23.1	-12.5	7.7	-23.1
総合	-57.1	-23.1	-12.5	-7.7	-7.7

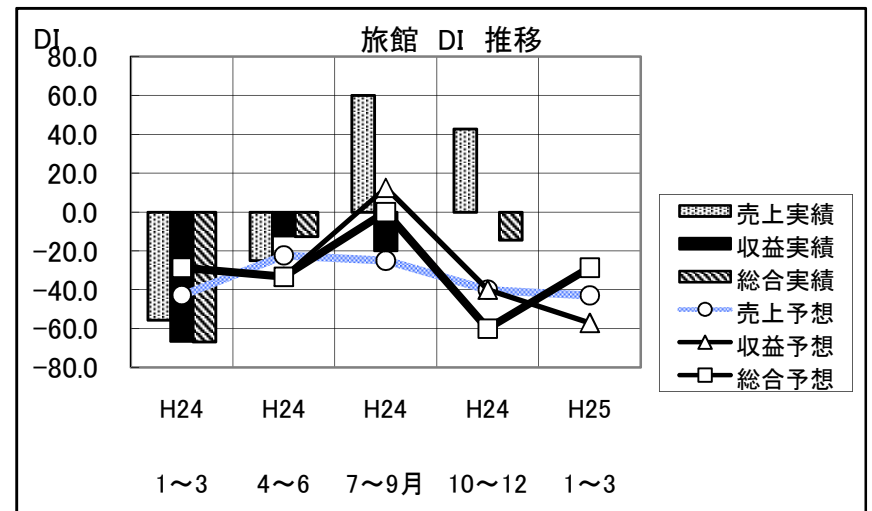
【旅館】

全体的に厳しい状況だが、宿泊者数は前年並みを確保。近年、旅行形態が家族・友達同士等の小グループ化により、週間天気予報が出た後の超間際予約が増え先が読めない。新たなニーズを掴む商品を提供し、食・施設・サービスの質を向上させたい。インバウンドも厳しい状況下だが、中国以外からの訪日旅行は持ち直しており今後へ期待。忘年会は、トヨタグループの景気状況に左右され厳しいが前年並みを確保。「オンパクin蒲郡」は開催2年目で参加人数も昨年比2倍超と成果が出た。今後も継続して地域の魅力の掘り起こし、宿泊の増加へと繋げたい。向こう3カ月の見通し 年始も例年並を確保できる見込み。今年は年末年始は9連休の企業が多く期待感がある。3月には、蒲郡駅に観光交流センターがオープンするが、地域の魅力を発信する総合情報発信基地にするだけでなく、広域観光の情報も集約していきたい。また、1月から新しい旅行商品「宿の一押しプラン」が始まる。各館毎にプランは異なるが、蒲郡全体としてのテーマを持った商品であり、蒲郡をPRしたい。また、少し先の事になるが、豊川の「B-1グランプリ」や伊勢神宮の「式年遷宮」、当市では「蒲郡ナイトマラソン(仮称)」等の大型イベントもあり宿泊客の確保に努めたい。地域の魅力を高め発信していくシティセールスに取り組みたい。(観光部会)

(旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	42.8	-42.9
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-14.3	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-14.3	0.0	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	28.6	28.6	-28.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-14.3	-28.6



<業況判断DIの推移>

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-55.6	-25.0	60.0	42.8	-42.9
収益	-66.7	-12.5	-20.0	0.0	-57.1
総合	-66.7	-12.5	0.0	-14.3	-28.6

運輸通信業

売上DI値は△12.5、前期実績7～9月期(0.0)に比して12.5ポイントの下降、収益DI値は△37.5、前期実績7～9月期(△28.6)に比して8.9ポイントの下降、総合判断DI値は△37.5、前期実績7～9月期(△14.3)に比して23.2ポイントの下降と、売上・収益・総合とも悪化傾向である。

向こう3カ月の見通し 売上・総合は悪化、収益は改善も全て水面下の厳しい状況。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-12.5	-50.0
②製品・商品在庫	12.5	12.5	12.5
③資金繰り	0.0	-12.5	-12.5
④採算(収益)	-50.0	-37.5	-25.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-25.0	0.0	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	-37.5	-50.0

[旅客・貨物輸送・水運]

<貨物輸送> 輸送量全体は大きな変化なく対前年微増に留まる。輸出は円高・欧州債務危機に伴う中国景気減速で、前年同期比で微減。輸入はエネルギー需要を中心に横バイ。木材等の原材料は全般に対前年微増だが、海外の産地出荷が停滞し、原木の輸入はここへ来て大きく落ち込む。完成車の輸出台数は、主力の欧州や中国の販売不振で対前年比△15%。向こう3カ月の見通し 国内の荷動きは政情不安定のなか、消費の冷え込みや未だ残る欧州債務問題と円高の恒常化で先行き不透明。鋼材等、自動車関連の製造業は減産傾向で経営状況も厳しく、貨物輸送量も横バイが続く見通し。木材等の原材料輸入は、住宅着工が微増傾向だが国内の購買力低下と産地での備船が困難な状況で、業界の構造的な問題もあり当面横バイの見通し。輸出は、欧州債務危機、中国景気減速もあり鈍い動きを予想。完成車輸出は市況の悪化が続く欧州向け限定のため前年同期1/3に落ち込む見通し。

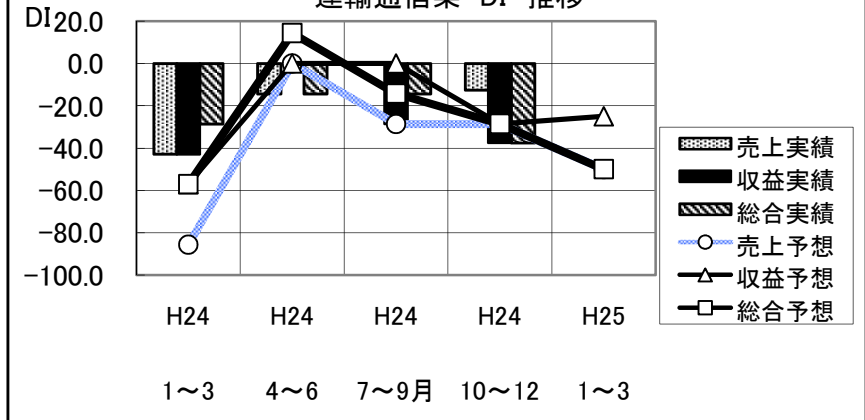
<バス業界関係> 秋～年末のシーズンだが、天災等の影響があった対前年比は上回るも、前々期比では特に収益面で厳しかった。また12月は衆議院議員選挙による出控えもあり、対前年比を割り込んだ。向こう3カ月の見通し 1～3月いずれも前年並みで推移する見込み。(運輸交通港湾部会)

(旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成23年10月～12月 に比べて	前期比 平成24年7月～9月 に比べて	来期見通し 平成25年1月～3月 の見通し
①生産額・売上額	-14.3	0.0	-42.9
②製品・商品在庫	14.3	14.3	14.3
③資金繰り	0.0	-14.3	-14.3
④採算(収益)	-42.8	-42.8	-42.9
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-28.6	0.0	-14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.5	-42.8	-42.8

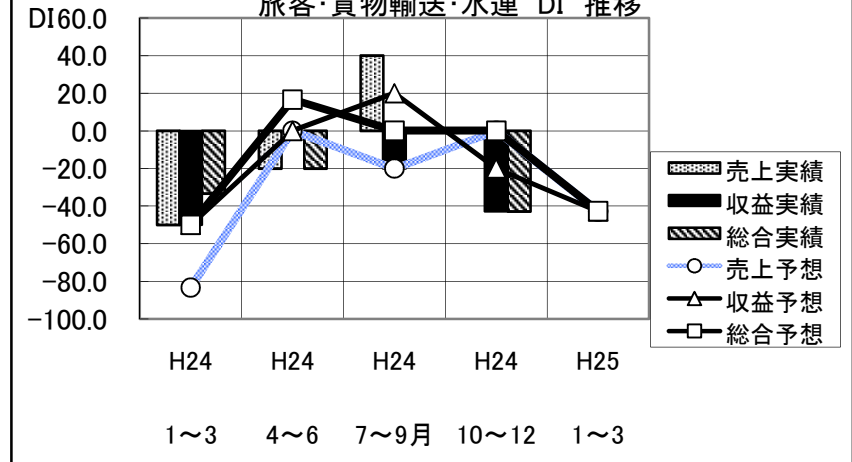
運輸通信業 DI 推移



<業況判断DIの推移>

	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-42.8	-14.3	0.0	-12.5	-50.0
収益	-42.9	0.0	-28.6	-37.5	-25.0
総合	-28.6	-14.3	-14.3	-37.5	-50.0

旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

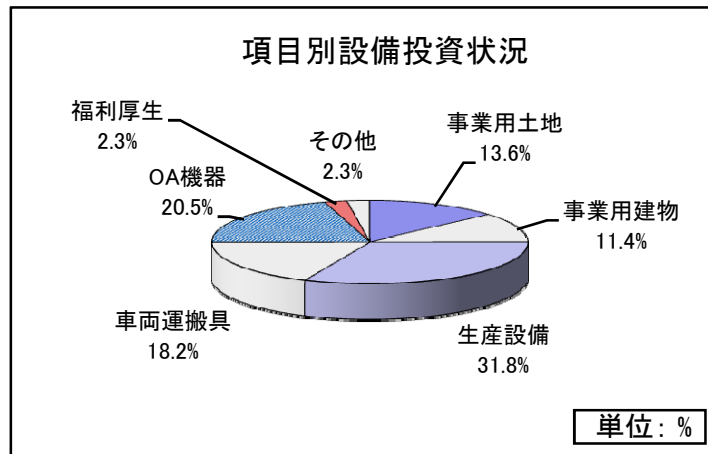
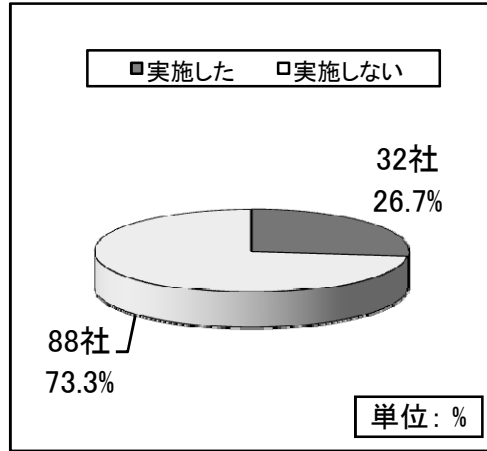


<業況判断DIの推移>

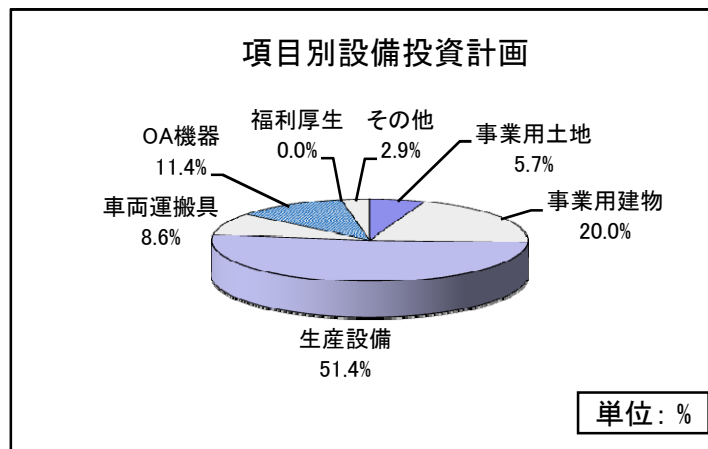
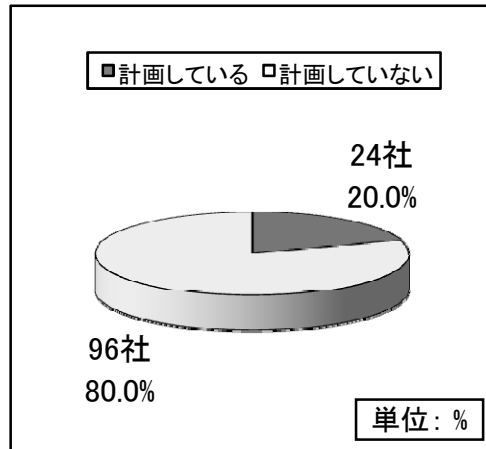
	H24.1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	H25.1～3月
売上	-50.0	-20.0	40.0	0.0	-42.9
収益	-50.0	0.0	-20.0	-42.8	-42.9
総合	-33.3	-20.0	0.0	-42.8	-42.8

7. 設備投資動向

＜今期(H24. 10～12月)設備投資実施状況 全業種＞



＜来期(H25. 1～3月)設備計画 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今 期	来期見通し
事業用土地	6	2
事業用建物	5	7
生産設備	14	18
車両運搬具	8	3
OA機器	9	4
福利厚生	1	0
その他	1	1
計	44	35

(単位:件)

◎今期(H24.10～12月)、来期(H25.1～3月)設備投資実施、計画動向

(単位:事業所)

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期 (H24.10～12月)	32	21	0	3	1	5	2
2. 来期 (H25.1～3月)	24	17	0	1	0	4	2

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 120 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	88 73.3%
2	利幅の縮小	60 50.0%
3	競争激化	46 38.3%
4	原材料(燃料)高	27 22.5%
5	合理化の不足	16 13.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	売上の停滞・減少 47 社 31 社 66.0%	利幅の縮小 22 社 46.8%	競争激化 17 社 36.2%
建設業	売上の停滞・減少 13 社 10 社 76.9%	利幅の縮小 10 社 76.9%	競争激化 7 社 53.8%
卸売業	売上の停滞・減少 15 社 10 社 66.7%	利幅の縮小 7 社 46.7%	競争激化 5 社 33.3%
小売業	売上の停滞・減少 24 社 21 社 87.5%	競争激化 13 社 54.2%	利幅の縮小 13 社 54.2%
サービス業	売上の停滞・減少 13 社 10 社 76.9%	利幅の縮小 6 社 46.2%	消費者ニーズの変化の対応 4 社 30.8%
運輸通信業	売上の停滞・減少 8 社 6 社 75.0%	競争激化 3 社 37.5%	原材料(燃料)高 3 社 37.5%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No.57

番号	調査項目	単位	H25. 1報告	基準日	H24. 10報告	基準日	H24. 7報告	基準日	H24. 4報告	基準日	出典
1	人口	人	80,302	H24.12.1	80,386	H24.10.1	80,431	H24.7.1	80,498	H24.4.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳 (日本人のみ)
2	世帯数	世帯	29,657	H24.12.1	29,640	H24.10.1	29,566	H24.7.1	29,462	H24.4.1	〃
3	15才～65才生産人口	人	50,431	H24.10.1	50,431	H24.10.1	50,317	H24.7.1	50,613	H24.4.1	蒲郡市 市民課
4	外国人登録者数	人	2,088	H24.12.1	2,119	H24.10.1	2,188	H24.7.1	2,139	H24.4.1	〃
5	建築確認届出件数	件	105	9月～11月	111	H24.6～8月	129	H24.3～5月	87	H23.12～2月	蒲郡市建築住宅課 受付件数 (建物の新築および増築の合計件数)
6	全国完全失業率	%	4.1	H24.11月	4.3	H24.7月	4.4	H24.5月	4.5	H24.2月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%	3.2	H24.7～9月	4.2	H24.4～6月	3.7	H24.1～3月	3.3	H23.10～12月	愛知県 「労働力調査地方集計結果」
7	全国有効求人倍率	倍	0.80	H24.11月	0.83	H24.8月	0.81	H24.5月	0.75	H24.2月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.63	H24.10月	0.72	H24.8月	0.62	H24.5月	0.70	H24.2月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

(※) 統計数値に、岩手・宮城・福島を除く集計です。

全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除く)前年比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整系列(前期比)	消費支出 前年同月比% 実質	新車販売台数 (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	500.3		1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	509.6		▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	498.4		▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	497.6		▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	502.9		▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	497.7		▲ 3.4	405.9
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	491.3		▲ 0.6	396.6
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	490.2		▲ 0.2	402.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	498.3		0.4	396.2
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	501.7		▲ 0.4	392.8
2006年度	275	4.1	1.06	2.0	1,285,246	507.3		▲ 2.2	371.5
2007年度	257	3.9	1.04	0.7	1,060,741	515.5		0.9	342.8
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 5.7	1,093,519	504.2		▲ 1.9	321.2
2009年1月	277	4.1	0.67		70,688			▲ 5.9	17.4
(平成21年)2月	299	4.4	0.59	▲ 36.9	62,303	115.2	▲ 3.8	▲ 3.5	21.8
3月	335	4.8	0.52		66,628			▲ 0.4	32.3
4月	346	5.0	0.46		66,198			▲ 1.3	16.6
5月	347	5.2	0.44	▲ 37.7	62,805	116.9	1.6	0.3	17.8
6月	348	5.4	0.43		68,268			0.2	24.3
7月	359	5.7	0.42		65,974			▲ 2.0	28.9
8月	361	5.5	0.42	▲ 27.0	59,749	114.7	▲ 0.2	2.6	19.8
9月	363	5.3	0.43		61,181			1.0	32.1
10月	344	5.1	0.43		67,120			1.6	26.3
11月	331	5.2	0.43	▲ 4.8	68,198	124.2	1.9	2.2	29.3
12月	317	5.1	0.43		69,298			2.1	25.0
2010年1月	323	4.9	0.46	20.7	64,951			1.7	23.8
(平成22年)2月	324	4.9	0.47	27.9	56,527	117.9	1.6	▲ 0.5	29.4
3月	350	5.0	0.49	12.7	65,008			4.4	44.3
4月	356	5.1	0.48	32.0	66,568			▲ 0.7	22.2
5月	347	5.2	0.50	16.2	59,911	119.4	1.1	▲ 0.7	22.8
6月	344	5.3	0.52	26.0	68,688			0.5	29.3
7月	331	5.2	0.53	20.8	68,809			1.1	33.3
8月	337	5.1	0.54	38.8	71,972	118.6	0.5	1.7	29.0
9月	340	5.0	0.55	12.7	71,998			0.0	30.8
10月	334	5.1	0.56	20.2	71,390			▲ 0.4	19.3
11月	318	5.1	0.57	17.9	72,838	125.7	0.0	▲ 0.4	20.3
12月	298	4.9	0.57	7.2	74,517			▲ 3.3	17.9
2011年1月	309	4.9	0.61	27.6	66,709			▲ 1.0	18.7
(平成23年)2月	302	4.6	0.62	31.4	62,252	115.3	▲ 1.7	▲ 0.2	25.2
3月	304	4.6	0.63	5.5	63,419			▲ 8.5	27.9
4月	309	4.7	0.61	2.3	66,757			▲ 3.0	10.8
5月	293	4.5	0.61	16.4	63,726	114.6	▲ 0.5	▲ 1.9	14.2
6月	293	4.6	0.63	12.2	72,687			▲ 4.2	22.5
7月	292	4.7	0.64	▲ 2.3	83,398			▲ 2.1	24.1
8月	276	4.3	0.66	1.0	81,986	115.2	1.4	▲ 4.1	21.6
9月	275	4.1	0.67	5.9	64,206			▲ 1.9	31.3
10月	288	4.5	0.67	▲ 5.8	67,273			▲ 0.4	24.7
11月	280	4.5	0.69	3.9	72,635	122.7	▲ 0.2	▲ 3.2	25.2
12月	275	4.6	0.71	2.6	69,069			0.5	22.1
2012年1月	291	4.6	0.73	14.0	65,984			2.3	26.3
(平成24年)2月	289	4.5	0.75	▲ 9.3	66,928	117.0	1.2	2.3	33.3
3月	307	4.5	0.76	8.8	66,597			3.4	49.7
4月	315	4.6	0.79	8.8	73,647			2.6	20.8
5月	297	4.4	0.81	▲ 7.6	69,638	117.1	0.2	4.0	23.6
6月	288	4.3	0.82	▲ 11.4	72,566			1.6	31.7
7月	288	4.3	0.83	2.1	75,421			1.7	32.8
8月	277	4.2	0.83	▲ 19.2	77,500	115.9	▲ 0.9	1.8	23.2
9月	275	4.2	0.81	▲ 7.9	74,176			▲ 0.9	28.8
10月	271	4.2	0.80	▲ 4.4	84,251			▲ 0.1	22.5
11月			0.80		80,145				24.3
12月									

(総務省)

(厚労省)

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)

※ 統計により、岩手・宮城・福島を除くものもございます。